

国際交流基金のオリンピック・パラリンピックの機運醸成に関する取組 ①

平成27年度には約520件の文化芸術交流事業を実施、参加者・来場者は約625万人。アジアセンターでは、東南アジアとの間で約380件の交流事業を実施し、約81万人が参加。

取組事例1 日本文化の海外発信

海外において日本文化紹介事業をインパクトのある形で実施し、日本の魅力を発信することで2020年に向けた関心喚起、機運醸成を目指す。

◆ 松竹大歌舞伎 北京公演（日中国交正常化45周年記念事業）

中国で10年ぶりの本格的な歌舞伎公演。

会期：平成29年3月18日～20日（5回公演）会場：北京天橋芸術中心

出演：中村鴈治郎、中村芝翫、片岡孝太郎 ほか



©松竹株式会社

◆ ポンピドゥ・センター・メッス(フランス)での大型展覧会

ポンピドゥ・センター・メッスが全館を挙げて開催する日本文化紹介事業”Japanese season“において、中心となる大型展2件を、「ジャポニスム2018」のプレイベントとして実施。

- ・「日本の建築と都市1945-2015年」展（仮称、平成29年9月～翌年1月）
- ・「日本の現代アート、デザイン、建築などの視覚文化を横断する—1970-2017」展（仮称、平成29年10月～翌年3月）

◆ JFF (Japanese Film Festival) アジア・パシフィック・ゲートウェイ構想

ASEAN諸国における日本映画への関心と興味を喚起するため、① JFFアジア・パシフィック・ネットワーク(各国での日本映画祭のJFFブランド化・ネットワーク強化)、② ファン型PRイベント、③ JFFオンライン・プラットフォームの3つの基本スキームを通じ、日本映画を総合的に発信する。

国際交流基金のオリンピック・パラリンピックの機運醸成に関する取組 ②

取組事例2 文化の多様性

文化の多様性と異文化理解に着目した日本国内での事業実施を通じ、文化の違いを受け入れ、より深い相互理解に向かうための契機とする。

◆「サンシャワー: 東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」

20世紀後半に様々な変革を遂げた地域である東南アジアの現代美術のダイナミズムと多様性を、国内過去最大規模で紹介。

会期: 平成29年7月5日～10月23日

会場: 国立新美術館(東京都港区)、森美術館(東京都港区)

ジョンベット・
クスウィダナント
《言葉と動きの
可能性》
2013年



◆ ダンス・ダンス・アジア～クロッシング・ザ・ムーヴメンツ

若い世代を中心に人気を博するストリートダンスをキーワードに、アジア域内の交流と国際共同制作を実施。国や文化、ジャンルの垣根を越えたアーティストとの協働を通じて、「共生」「共感」の醸成を目指す。



◆ 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM in Yokohama)

近年、アジアへのフォーカスを強化している、国内外の舞台芸術関係者の交流プラットフォーム「TPAM in 横浜」において、舞台作品の上演、国内外の舞台関係者によるミーティング、セミナー等を開催する。



エコ・スプリヤント『BALABALA』
©David Fajar Gestu